

令和3年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和4年2月作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
「わかる、楽しい授業」を基盤に、自ら学ぶ力の育成に努める	自ら考え判断する力の育成	地域の人・もの・ことを教材に取り入れ、問題解決学習を重視し、自ら考え、判断する場を設定した授業を心がける	B	B	地域の教育力の活用や地域に出て地域から学ぶ授業が定着している。一方、コロナ禍で人と関わる活動が厳しい状況があった。今後の維持と見直しが必要である。 「お話タイム」を設定し、自分の考えを発表する経験を積み重ねるとともに授業では、積極的に話し合う場をもった。	A	学校全体で地域の学習をカリキュラムに取り入れ、段階を追って深まりゆく学習を展開している。コロナ禍だが交流は続けている。伝え合える環境・雰囲気を整っている。	地域と関わりながら心豊かな子どもを育てている成果を尊重しつつも、地域の問題にも気づかせ解決策を考えるなど、今後も意識して問題解決学習を実践し、自ら学ぶ力の育成に努めていく必要がある。授業に対する工夫や指導の充実を引き続き進め、一人一人の意欲と学力を高める、子ども主体の授業をめざす。
	「話す・聞く」力の育成	発達段階に応じた「伝え合う」ためのスキルと学習規律を養う場として、お話タイムの実践に力を入れる	A					
心豊かな子を育てる教育活動を推進する	優しい心・思いやりの心の育成	相手のことを理解しようとして、優しく接したりする心を育むために、自分の行動や周りの行動の様子が文字化・可視化できる活動を継続していく	A	A	各教科や領域での体験活動、行事や「賀茂タイム」での縦割りやペア学年活動等の異学年活動を通して、友達や下級生に優しく親切に接する子どもの姿が多く見られた。 自分たちが模範になろうと高学年児童が「挨拶隊」を結成し、校内での挨拶の意識を高めた。	A	子ども同士で互いに認め合い高め合う姿勢が授業からみられる。ふだんから意識した実践が行われている。 挨拶は何度も言って聞かせやってみせることが大切である。	さまざまな体験活動を生かし、道徳の時間を中心に相手の立場に立って考える心の育成と、自己肯定感を高め、自分も大切にできる子の育成に努めていく。挨拶は、場面をとらえて指導し継続的に認め励ます。地域にも広げ、場面に応じた挨拶ができるよう、指導・助言の工夫が必要である。
	生活習慣の基本、挨拶の意識を高める	先手の挨拶を行うことにより、一日を気持ちよく過ごせるためのツールとして感じる習慣を身につけさせる。大人がまず見本を、教職員はもちろん、保護者・地域にも呼びかける	B					
規則正しい生活習慣を養い、心身ともにたくましい子の育成に努める	健康で丈夫な体づくりへの意識の育成	外遊び、早寝・早起き、ノーメディアデーを奨励して、自分の健康に関心をもち、身体を鍛える活動に積極的に参加する子どもの育成を図る	A	A	学校保健委員会やノーメディアデーの取り組み、担任と養護教諭との保健指導等において自分の身体や健康に関心をもち、生活習慣について考える子の育成に努めた。 縄跳び活動を中心に、授業での継続的な実践、運動委員会の啓発活動により、子どもの体力向上に努めることができた。	A	生活点検で定期的に生活の見直しができている。コロナ禍でも自分の身体に向き合うことを続けてほしい。 部活動がなくなったので、体力向上の活動を継続して欲しい。	今後も具体的な目標設定によって体力、健康面での指導を図りたい。その際、目標達成を優先するあまり、目標に到達しない子どもへの配慮が欠けることがないよう十分配慮し、個に応じた手だてを講じたい。健康面では今後も養護教諭と担任が連携して指導していく。
	バランスのとれた基本的な体力の育成	バランスのとれた基本的な体力の育成のため、なわとび活動などの総合的な体力向上を目指す活動を、年間を通して位置づける	A					
安心して学ぶことができる学校づくりを推進すること	職員の安全に対する意識の向上	「安全が最優先」を肝に銘じ、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの視点から、安全管理体制を充実させる	A	A	さまざまな状況を想定した避難訓練を計画・実施し、子どもの意識向上が図られた。今後一人一人の避難スキルの向上を図りたい。また、職員の食物アレルギー対応研修や訓練を通して児童の安全を確保するための実践的な行動力を高めてきた。 業務の効率化を図り、子どもに向き合う時間とゆとりの確保に努めた。	B	自分の身は自分で守ることの大切さをこれからも知らせてほしい。 省ける雑務は省いて時間短縮を図り、子どもとのコミュニケーションの時間を十分とってほしい。	子どもの安全に関する実践力や態度を育てるという目標を明確にし、子どもへの安全指導や安全に関わる準備対応について、一層の充実を図りたい。これまでの多忙化解消の取り組みを継続するとともに、内容の充実と作業効率の効率化をめざし、子どもと向き合う時間を確保していく。
	教員の多忙化削減	全職員協働での教育活動の推進、タイムマネジメント能力の向上を通して、教職員の多忙化削減を目指す	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】